

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付: 2023年7月30日

事業ID: 2022S01359

事業名: 長野県御代田町の「子ども第三の居場所」(B)コミュニティモデルにおける子どもへの体験機会の提供(2022)

団体名: 一般社団法人 御代田の根

代表者名: 渡辺敦子 印

TEL: 070-8303-4434

事業完了日: 2023年6月30日

■契約時

事業費総額	:	500,000	円
自己負担額	:		円
支援金額	:	500,000	円

■箇所は(様式3)収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	502,117	円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	2,117	円	収支計算書の緑のセルの値
支援金額	:	500,000	円	収支計算書の赤のセルの値
支援金返還見込額	:		円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

■事業内容1

(1)支援契約書記載の事業内容(予定)

1.ブッシュクラフト講座の開催(4回)

(1)期間:2022年9月、12月、3月、6月
(2)場所:長野県小川村「星と緑のキャンプ場」および御代田町近隣の森
(3)内容:自然の中でサバイバルする「ブッシュクラフト」インストラクターであり長野県小川村でキャンプ場を営む梨本利信さんを講師に全4回の講座を実施する。

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1.ブッシュクラフト講座の開催(4回)

(1)期間
①2022年11月:ブッシュクラフトワークショップ(ナイフワーク、ロープワーク、焚き火初級編)
②2023年4月:焚き火ワークショップ(直火レクチャー)
③2023年5月:バンブークラフトワークショップ(ナイフワーク)
④2023年6月:野草ワークショップ(よもぎクリームづくり)
(2)場所:みよたの広場
(3)内容:期間参照。講師はすべて梨本利信さん

(3)成功したこととその要因

全ての講座で10組以上の方々ワークショップにご参加くださり、防災に役立つ知恵をお伝えすることができた。ワークショップをきっかけに初めて広場に来てくださった方も多く、広場を知っていただくことができた。事前の告知が有効に機能したと考えられる

(4)失敗したこととその要因

当初の予定ではキャンプ場や近隣の森で開催する予定だったが、移動手段を確保することができない子どもたちを取りこぼさないために、会場をみよたの広場に限定した。今後、拠点の外でイベントを開催する際には、移動手段を確保できない子ども向けの送迎手段を用意する必要がある

(5)事業内容詳細

- ①2022年11月:ブッシュクラフトワークショップ(ナイフワーク、ロープワーク、焚き火初級編)
参加人数:32名。みよたの日曜市でワークショップブースを設け、子ども向けのブッシュクラフト講座を行った。マッチ、メタルマッチ、火打石など色々な媒体を使った火おこしの方法を学んだ。また木材に火が付きやすくするためのフェザースティックの作り方、タープの貼り方のロープワークなどのレクチャーも同時に開催した。
- ②2023年4月:焚き火ワークショップ(直火レクチャー)
参加人数:25名(10家族)。ネイティブインディアン流儀に則った直火のレクチャーを受けた。小さな穴を掘り、広場に落ちている小枝を使って小さな火を起こす。そして小さな火を維持しながら調理を行い、最後は鎮火させて灰や穴の後処理をして、痕跡を完全に消すテクニックまで習得した。子ども連れのお母さんの参加が多く、いくつもの小さな焚き火が生まれては消えた。
- ③2023年4月:焚き火バームクーヘンワークショップ
参加人数:20名程度。みよたの日曜市(マルシェ)の体験ブースで、焚き火を使ったバームクーヘン作り体験を行った。広場に遊びにきた多くの子供達が参加し、とても美味しいバームクーヘンを作り、楽しんだ。
- ④2023年5月:バンブークラフトワークショップ(ナイフワーク)
参加人数:25名(7家族)。竹を使ったナイフワークのレクチャー。木材よりも繊維の方向が均一で加工に適していることからナイフワークの練習に優れていることなどを伺った上で、箸、好みのカトラリーの削り出し、やすりがけを行った。箸を持ち運ぶための箸ケースも作った。
- ⑤2023年6月:野草ワークショップ(よもぎクリームづくり)
参加人数:18名(7家族)。広場に生えたヨモギを採集し、オイルで煮出し、蜜蝋ワックスで固めてクリームを作った。その他の野草や草花でのチンキの作り方、効能などについても、各自質疑をしながらワークショップを勧められ、子供もお母さんも楽しめるワークショップとなった。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

2.年間を通した畑のサポートおよび農業講座(講座は3回)

- (1)期間:畑サポートは通年。農業講座は2022年8月、9月、10月
(2)場所:御代田町内の畑
(3)内容:御代田町内の有機農家/ネイチャーガイドである井上基さんを講師に、町内の畑を通年通して運営するとともに、収穫体験を含む講座イベントを開催する。

(2)事業内容の実施(完了)状況

2.年間を通した畑のサポートおよびネイチャーガイド(3回)

- (1)期間:畑サポート 通年。ネイチャーガイド 2022年10月、11月、2023年3月の計3回
(2)場所:御代田町内の畑
(3)内容:御代田町内の有機農家/ネイチャーガイドである井上基さんを講師に、町内の畑を通年通して運営した。農業体験イベントに代わり、近隣のフィールドでネイチャーガイドを実施した



(3)成功したこととその要因

レクチャーの内容は参加者からとても好評で、多様な切り口で身近にある大自然についての学びを深めることができた。農業講座は通年の畑サポートの中で雑草を抜きながら進める形になったため、当初講座に充てるはずだった予算をネイチャーガイドに充てることができた。

(4)失敗したこととその要因

内容は好評だった一方、移動が前提となるレクチャーだったため、参加できる子どもたちが限定され、思ったよりも参加人数が少なくなりました。

(5)事業内容詳細

①2023年10月「種の話のタネに」

参加者:10名

ネイチャーガイド井上基さんとの森歩きや「種取り」活動を通じた「種」そして自然への理解を深めた。植物には、種にまつわるそれぞれの戦略があることをゆっくり歩きながら、読み解いた。種から、そのエリアに暮らす他の生き物の姿が浮かび上がってくることを学び、後半は、この夏、農薬や化学肥料を使わずに育てたひまわりの種取りを行った。作業をしながら、種をつないでいくことの意味を考えた。いつも何気なく見かける草花、森の木々たち。それらを子どもでも分かるよう面白いお話で紹介してくれました。ただの知識というより、「なんでこんな形をしていると思う？」という問いかけから、植物界のルールや構造を理解していくような豊かな時間を、大人も子どものような気持ちで楽しむことができた。

②2023年11月「星空観察」

参加者:10名

県内でも標高の高い東信地域の森の中で、星空の観察を行いました。冬なのに天の川、冬だけ夏の大三角形などが見え、星座の話や、星空の一生の話など、物語からサイエンスの話まで色んな切り口で星空を観察できる楽しい時間だった。

③2023年3月「雪の森で足跡探し」

参加者:13名

雪の積もった森の中で、動物たちの足跡を探した。普段に目にすることが難しい野生動物たちも、冬には特に痕跡を残してくれる足跡を見つけ、どんな動物なの？何をしていたんだろう？など、探偵になった気分森の中を散策した。子どもも大人も夢中になって楽しめる時間だった。

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

3.拠点の環境整備としての図書購入

(1)内容:上記環境体験プログラムの予習・復習の機会となり、またイベント時以外の日常においても環境理解を自然と深めていけるための図書を購入する。選書は理事でありブックディレクターの内沼晋太郎が実施する。



(2)事業内容の実施(完了)状況

3.拠点の環境整備としての図書購入

(1)内容:上記環境体験プログラムの予習・復習の機会となり、またイベント時以外の日常においても環境理解を自然と深めていけるための図書を購入した。選書は理事でありブックディレクターの内沼晋太郎が実施した。

(3)成功したこととその要因

当初の予定通り、ブックディレクターの内沼晋太郎氏によって選書された図書を導入した

(4)失敗したこととその要因

選書の時期が事業終了ギリギリになってしまったため、図書の貸し出しシステムの導入や図書整備の告知が遅れてしまった。SNSで認知拡大に努めていく

(5)事業内容詳細

当初の予定通り、ブックディレクターの内沼晋太郎氏によって選書された図書121冊を導入した。導入済みの書籍リストは別紙参照のこと

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)支援契約書記載の目標

- 1.ブッシュクラフト講座の開催(4回)
- 2.年間を通した畑のサポートおよび農業講座(講座は3回)
- 3.拠点の環境整備としての図書購入

(2)目標の達成状況【700文字以内】

入力文字数	155	文字数チェック	OK
1.ブッシュクラフト講座の開催(4回) ブッシュクラフト講座を5回開催することができた。			
2.年間を通じた畑のサポートおよび農業講座(講座は3回) 年間を通じた畑サポートに加え、ネイチャーガイド3回を実施した。			
3.拠点の環境整備としての図書購入 ブックディレクターの選書した図書121冊を購入した。			

3.事業実施によって得られた成果

実施したブッシュクラフトワークショップおよびネイチャーガイドのレクチャーにより、子どもたちが自然との接点を持つ機会が増え、また自然と接する際の視点を養うことができた。ブッシュクラフトワークショップの中では、ロープワークやタープの張り方、ナイフワーク、火の付け方など災害時に必要となる生きる力を養うことができたと考える。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

書籍の購入タイミングが遅くなったことで、振り返りの機会をタイムリーに提供できなかった点は課題が残る。書籍が導入されたことをアピールし、書籍の貸し出しもできるようにシステム整備を進めることで、振り返りの機会を提供する。

また、ワークショップを拠点外で開催する場合の送迎は、一部の子ども達を排他することになってしまうため、ケアが必要。親の同意書を得るなどして、人数限定でも送迎を行うように配慮する。

5.事業成果物

(1)支援契約書記載の成果物名称

事業完了報告書。
またイベントの様子や整備状況は、適宜 Instagram およびnoteにて写真・動画で公開します。

(2)事業完了時の成果物名称

事業完了報告書。
またイベントの様子や整備状況は、適宜Instagram およびnoteにて写真・動画で公開します。
<https://www.instagram.com/miyotanone/>



(3)未作成となった要因

SNS運用の観点から、すべてのイベントについて情報発信はしておらず、一部イベントについて発信が行えていない。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL